

エス ディー ジー ス

あなたの街のSDGs

Vol.1

～ 長野県SDGs推進登録企業の紹介 ～



飯田エフエム放送イステーションは長野県SDGs推進企業登録事業所です。弊社の取引先などのSDGs達成に向けたサービスの取り組み、環境啓発活動の一つとして、この2022年冬号の紙面からSDGs推進企業の紹介を行っていきます。2022年冬号は初回という事で、そもそもSDGsって何だろう?を中心に株式会社リックスの取り組みなどを代表取締役の熊谷弘さんにインタビューしました。

株式会社リックス

代表取締役 熊谷 弘

長野県飯田市三日市場1466-1
https://lics-net.com/



株式会社リックス



代表取締役 熊谷 弘さん

- 1973年(昭和48年): 伊賀良電化サービス 創業
- 1994年(平成06年): リックスイガラ に店名変更
- 2003年(平成15年): (有)リックス 設立
 - 11月: でんき館リックス オープン
 - 12月: ミスターコンセント飯田店オープン
- 2008年(平成20年)9月: (株)エイデンと業務提携
- 2013年(平成25年)7月: 株式会社リックスに社名変更

Q1 近年ニュースなどでよく耳にする「SDGs*」。17色のカラフルなモチーフ、スーツにバッジなどご存じの方も多いかと思いますが、SDGsとは何でしょうか?

A1 熊谷: 2015年9月に国連加盟国193か国によって採択された「持続可能な開発目標」です。人間および地球の繁栄のための2030年までの行動計画として17の目標と169のターゲットから構成されています。世界中が誰一人取り残さない社会を築くために行動する世界規模の開発目標といってもいいでしょう。

*Sustainable Development Goalsの略語

Q2 「持続可能な開発目標」と聞くと難しい様な気がしますが、地球環境に対する危機感や様々な限界が見えてきていることに徐々に気付きはじめています。わたしたちは具体的にどう行動していけばよいのでしょうか?

A2 熊谷: SDGsの誕生過程には2015年を年限としてMDGsというミレニアム開発目標というものがありました。ずっと国連では地球をどのように導くか絶えず考えていたのですね。

今、私たちは日本で豊かな生活をしています。世界規模では飢餓に苦しむ国も存在します。その他様々な問題が山積しており、世界中で孫の世代…永代に美しい地球を残すことが重要です。今は幸せかもしれませんが「誰かの不幸の上に自分の幸せを築かない為に」という意識が重要だと思います。まずは意識改革から始めましょう。

Q3 意識改革を進めるには主導する国、県、企業などの取り組みも重要です。長野県ではSDGs推進企業登録が1000社近くあり企業での取り組み意識が高い地域です。その中で株式会社リックスではどのような取り組みを行っているのでしょうか?

A3 熊谷: 愛するふるさと南信州を拠点として再生可能エネルギーで南信州を元気にということで「結プロジェクト」を立ち上げています。子供たちの教育の充実、防災機能の向上、文化の振興等を図ることによって地域活性化をはかって持続可能な南信州を目指すとともにSDGsの達成に貢献していくことを方針としています。重点の結いプロジェクトの達成においては飯田下伊那の公共施設に太陽光発電をあげてその使用料を還元し子供たちの教育の充実、地域の防災機能の向上、リニアによる地域活性化、スポーツ・音楽・食・伝統文化などに関し再生可能エネルギーから得た財源からそれらの文化振興を図り、心豊かに飯田独自の「結」の部分につなげていくことで地域の発展を再生可能エネルギーで図っていくことを目標に掲げています。

Q4 きっかけは太陽光発電事業なのですが地域の活性化につなげるまで考えていらっしゃるんですね。今年、飯田市はゼロカーボンシティ宣言をしました。SDGsの中でもゼロカーボンにつながる項目は個人でも取り組みますよね?

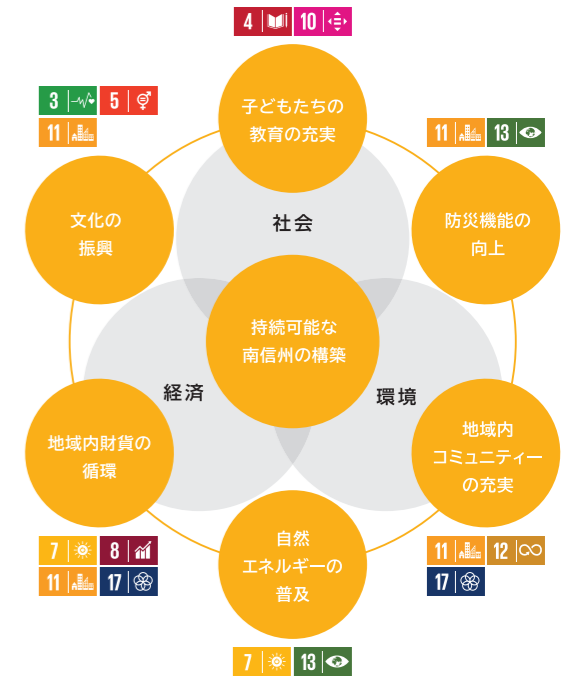
A4 熊谷: カーボンニュートラルの考え方は、Co2は必ず排出されるのだけれど、プラスの部分とマイナスの部分を相殺してゼロにしようという考え方です。それには再生可能エネルギーの普及と省エネが重要です。市民の皆さんも省エネの取り組みを行い、出来るだけCo2を出さないこと。また再生可能エネルギーを取り込みCo2削減の両輪で取り組むことが大事だと思います。今、SDGsが学びの場に導入されたり、高校入試で試験に出たり、児童会などでもフードドライブなどに取り組むなど、若年層に浸透しつつあります。また、保護者の中には「1週間の献立を立てて料理しているので食品ロスはゼロ」「残り物で作るレシピをスマホアプリで検索して料理を作る」など食品ロスの取り組みを自然に行っています。大事なことは一人一人がSDGsを学んだ中で何かできることを見つけて取り組むことだと思います。



再エネで南信州を元気に



結プロジェクト YUI PROJECT



再々可能エネルギーで持続可能な南信州の構築図

Q5 おしまいにSDGsの重要な理念に「誰一人取り残さない」というものが宣言されています。熊谷さんのSDGsへの思い、またはSDGsの取り組みを通じて伝えたいメッセージを聞かせてください。

A5 熊谷: 地球環境がこのままではまずいな、自然環境が壊れていくことを目の当たりにして、わが社として取り組むべきことは再生可能エネルギーの普及、省エネ機器の推進が一つのきっかけでした。今は立場的に教育に携わることも多く、子供たち保護者、全県、全市一丸となってSDGsに取り組むことで世の中が良くなっていくと思います。地球を孫の世代へ残していくためにも私たちの幸せにおいて誰かが不幸になることは良くないことです。今、大人が伴走者として子供たちと共にSDGsに取り組むことで世の中が明るくなっていけばうれしいと思います。是非、一人一人の意識から変えていきましょう。

文・インタビュー: 堀 竜也 (飯田エフエム放送(株) 編成制作局局長)